

令和8年度「小代っ子」

香美町立小代小学校
R8.10.7 No.11

◆ふるさとに学び 誇りと夢をもち
心あたたかく たくましい 小代っ子の育成◆

10月 学校生活の折り返し後期へ!

木々が色づき、空気が澄んでくる10月。日本ではこの月を「神無月（かんなづき）」と呼びますが、名前の響きから少し神秘的な印象を受ける方もいることでしょう。

日本の神話の中では、10月に全国の神々が「縁結び」や「人の運命」に関する会議を開く（出雲大社に集まる）と伝えられています。出雲以外の地域では神様が不在になると考えられたことから「神無月」と呼ばれるようになったとのこと。（※諸説あり）紅葉や澄んだ空、静かな夜の虫の声など、10月には心を落ち着ける風景が広がります。神々が会議をするという神話も、こうした静謐（せいひつ）な季節感と重なって、より味わい深く感じられるのかも知れません。このような好季節に子どもたちもきっと成長を遂げてくれることと思います。

9月30日（水）には、後期児童会役員選挙が行われました。

理想を掲げ、真剣に訴えた立会演説会

全校児童が集い、臨んだ立会演説会。

小代小は、1年生から6年生までの全校児童が演説を聞き、投票を行います。

5.6年生の立候補者からは、「さわやかな挨拶のできる学校に」「全校でこれまで以上に絆を深めていきたい」といった思いとともに、それらを実現するための具体的な取組を考え、力強く訴える姿が見られました。



9月30日(水) 立会演説会の様子



投票用紙に各々に書き込み投票する様子

しくみ、そして「自治」を学ぶ機会に

準備や司会進行は、3.4.5.6年生の選挙管理委員の児童が行いました。演説の聴き方、投票の仕方や留意点の説明、投票用紙の配布や回収などにも動いてくれていました。低学年の子どもたちには、少し難しさもあったかと思いますが、「投票で人を選ぶ」という社会の仕組みを体感するよい機会が得られたことと思います。

会の冒頭、子どもたちに「児童会は何のためにあるのだろうか?」と問いかけました。児童集会を行うことも、毎月 of 生活目標を決めて実行することも、各委員会の様々な取組も全ては自分たちの生活をより良くするためにやっていること。言い換えれば、自分たちで考え、自分たちの手で、自分たちのために行う活動が児童会活動ということ話をしました。

「自治」という言葉は、子どもたちには難しい言葉ですが、『**自**分たちで**治**めること』という自立に向けた認識を今後も学ばせることができればと思います。

投票日の翌日、全校児童のあいさつの声がいつもより大きく(!)なっていました。リーダー（立候補した子どもたち）とフォロワー（支える子どもたち）で協力し合い、よりよい小代小を築いてくれるものと思います。後期も頑張れ小代っ子たち!

健闘！村岡ミニミニ駅伝！

今年の駅伝には、3年生から6年生の男子7人、女子4人の計 11 人が名乗りを上げてくれました。「走ることは楽しくもあり、苦しくもある。」そこに前向きに手を挙げてくれたことが何より嬉しかったです。10/4(日)の大会では、男子が7位、女子が香美連合(村岡小・兎塚小との合同チーム)で 3 位に入る健闘を見せました、次は 10/24(土)のジオパーク(但馬小学校)駅伝。どんな成果が得られるか楽しみです！



健闘した選手たち(うづかの森体育館にて)

秋！交流もさかんに！



10月5日(月)あさがお学級の児童が香美町小・中学校の合同学習会(射添体育館)に参加しました。小中学校の友だちやみかた校の児童・生徒のみなさんと自己紹介の後、スローイング・ビンゴなどのレクリエーションで交流を深め、自立性や協調性を養う活動にすることができました。

また、9月28日(月)には、1年生が出石特別支援学校みかた校より同級生の友だちを迎え、居住地交流を行いました。国語の音読を一緒に楽しみ、リフレッシュタイムはみんなで一緒に遊びました。

参加する側にも迎える側にもたくさんの学びと笑顔がありました。環境を変え、多くの人と交わることは、お互いにより刺激となり、頑張る自覚を新たにすることができたことと思います。

♪芸術の秋 満喫♪

♪ 9/16(水)いつもの体育館に世界レベルのパフォーマーがやってくるを合言葉に今年も「豊岡演劇祭」と連動し、国内外で愛される to R mansion(トゥーアールマンション)と大阪交響楽団の四重奏が子どもたちのために特別なアンサンブルを届けてくれました。参加型の楽しいパフォーマンスに子どもたちの笑顔が溢れました。9/29(火)には、6年生が香美町の小6から中3が観賞した金子三勇士さんのクラシックピアノコンサートに出かけました。6歳から单身ハンガリーに渡り、夢を叶えたお話



to R mansion&大阪交響楽団のみなさん

とともに迫力ある演奏に心が高鳴るコンサートでした。

「思いの丈 ～日々のまなざし～」

キャッチボールは楽しい

9月のスポーツフェスティバルの頑張りを足掛かりに再スタートを切った子どもたちと先生。そんな中、先生方からこんな声が上がった。

「あいさつの声が小さくなってきた。」「せっかく気持ちを含めた大きな声が出せるようになったのだから、続けていいあいさつができるよう声をかけよう。」

登校時のあいさつ、集会時のあいさつ、始業時のあいさつなど、各場面の定型のあいさつは、決して悪くない。しかし、廊下ですれ違った時やこちらから投げかけた何気ないあいさつには、覇気のない様子や声を出さずにやり過ごしてしまうような子どもたちの姿も時々見られる。

先日、6年生の自習を任せられた時、子どもたちに「キャッチボールは楽しい」という話をした。投げれば受け止めてもらえて、受け止めてもらえれば、また投げ返してもらえらる。単純にそれが楽しくうれしいのだと。短い距離で柔らかいボールを使って実際にキャッチボールもしてみた。そこには、やはり笑顔が生まれた。

目指したいのはそんなあいさつである。しかし、あいさつの指導はそれほど単純ではない。子どもたちの心の状態や何か問題を抱えている時もある。内向的な性格の子どもやコミュニケーションそのものを苦手とする子どももいる。そのあたりもしっかりと見極め、一人一人への理解を深めながら大切に向き合っていきたい。

一方で誰かからの投げかけを何となく素通りしてしまふことを当たり前にはさせたくない。人から声をかけてもらおうことのうれしさ。自分から声をかけ、それに応えてもらえることの心地よさ。そんな人と人とのつながりを学校生活の中でたくさん味わわせていきたい。

あいさつがキャッチボールのように「楽しい」とまで言えなくても、「心地いい。うれしい。だから自然にできる。」そんな子どもたちを育てていきたい。